

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成24年12月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770500698		
法人名	社会福祉法人 和泉市福祉会		
事業所名	ひかりの園グループホーム		
サービス種類	認知症共同生活介護		
所在地	大阪府和泉市下宮町205-5		
自己評価作成日	平成24年12月26日	評価結果市町村受理日	平成25年4月8日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪府泉佐野市和泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	平成25年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者の気分転換・下肢筋力維持の為、日課として散歩を行っています。また、散歩への参加が難しい方にも館内での歩行訓練・立位訓練を行い、できるだけ機能を維持し、長くグループホームでお過ごしいただけるよう取り組んでいます。</p> <p>また、できることは職員と共に参加していただけるよう努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の皆様が家庭的な雰囲気ですぐやかに過ごされていました。廊下やフロアに窓が多く備えつけられており、ホーム内に心地よい日差しが差し込み周囲の自然や民家も眺めることができます。また、ホーム内にも利用者が作成した手作り作品やボランティアの方から寄付された絵画が飾られており、装飾にもその人らしさや地域との繋がりを感ずることができました。行事やクラブ活動への参加も盛んであり、小・中学生との交流会や花見・遠足などの楽しみへの支援も積極的に取り組まれました。また、日々の生活の中でも園内・外の散歩をして頂くなど気分転換をはかり、楽しみながらリハビリが実施できる様に配慮されています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに、グループホームの目標を作り、共有・実践しています。	グループホーム独自の目標が玄関及び各フロアに掲げられ、年度始めには理念についての研修があり職員全体に理念についての意識統一がされています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩を行い、ご近所の方と挨拶をしたり、幼稚園・小学校との相互訪問等行っています。	日課の散歩や買い物等の外出時にご近所の方に挨拶をしたり、近隣の幼稚園や小学校とは、相互に行事への参加を行ったり、職業体験の受入が行われ交流が図られています。	現在検討中の自治会への入会について前向きに検討され、より一層の地域交流が深まることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者とグループホーム前の道路等清掃を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設関係者による施設の視察を受け、家族様には家族懇親会を開き、行事内容やご様子の説明を行っています。	同一法人内の施設関係者が参加し、サービスの質の向上について話し合いが行われています。	サービスの質の向上の意見交換の場として、利用者及び利用者家族、地域の方や市及び地域包括職員等多方面の方が参加し、意見交換されることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	和泉市より派遣される介護相談員に訪問いただき、施設の状況、ご利用者との話が市に報告され、指導を受けています。	毎月、市の介護相談員の訪問があり、ホーム内の状況について報告及び相談を行っています。また、その都度市役所にも出向き相談に乗ってもらっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は外出後戻れなくなる方がおられるのでやむを得ず行っています。その他の拘束は行っていません。	利用者の安全面を考え、やむを得ず玄関、階段、エレベーターは常に施錠がされています。その他の拘束は行っていません。	鍵をかけないケアの実践に向けて職員理解を深めるための研修及び会議を開催し、職員の意識改革を行ってはいかがでしょうか。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、ケア会議、ミーティング等で話し、相当することのないよう注意しています。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等で制度について確認し、ご家族、関係者と相談し、支援を行っています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、グループホームでの対応の限界、退園していただく条件もお話し、退園後について不安に思われないよう説明し、質問にもお答えしています。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市から介護相談員の訪問があり、ご家族には、電話や来園時にお話を伺っています。重要事項説明書にも苦情受付窓口を記載し、玄関にも連絡先を掲示しています。	利用者の声には常に耳を傾け、利用者家族に対しても面会時に積極的に声をかけ、何でも話せる関係づくりがされています。	意見を言い出しにくい利用者及び利用者家族に対して意見箱を設置してはどうか。
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	会議やミーティングで意見を聞き、日常的に対応や業務内容に反映しています。	管理者と職員間の関係が良好で日常的に運営に関して意見交換が行われています。また、会議やミーティング等意見を聞き取る機会もあり、それらの意見を運営に反映に反映させています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、面接などで職員の意見等確認し、指導方法の検討、内容の充実に取り組んでいます。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症対応型サービス事業管理者研修等の受講、法人内での研修等への参加も行っています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の施設間での勉強会や情報交換、また、近隣の施設との交流を持っていくよう取り組んでいます。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入所前にできるだけ情報を把握し、ご本人が安心してお過ごしいただける環境を用意しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの相談には丁寧にお答えするようにしています。また、入所後のご様子を連絡させていただいたり、グループホーム以外のサービスについてもご相談させていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご希望いただいてもすぐに入所していただける状態にありませんので、介護サービスを余りご存知ない方には各サービスの説明を行い、選択肢についても説明させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は可能な限りご自分で行っていただき、家事も役割を持っていただいています。行っていただいた事にはお礼を伝え、共同生活を送っていただいています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事予定等お知らせし、参加を呼びかけています。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご訪問いただいたり、手紙等出していただけるよう援助しています。	ボランティアの協力を得ながら家族や知人に年賀状や暑中見舞いの手紙を出しています。また、理髪店等馴染みの場所への外出支援もされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の様子に合わせ、各ご利用者が適切な距離で関わっていただけるよう配慮しています。また、レク等への参加促進など、必要に応じて職員も関わっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退園後もご家族からの相談等あれば、対応させていただきます。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族の意向を尊重し、ご本人らしく、ご本人のペースで生活を送っていただけるよう配慮しています。	日頃から利用者1人1人との関わりを大切にし、普段の話の中から思いや意向の把握に努め、家族とも相談し、その人らしく生活が送れるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入園前の面接、入所後のご本人・ご家族との話の中で生活歴等を伺い、対応に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の様子・状態を観察し、適切と思われる対応を行っています。また、能力に応じた日常生活内での役割を持っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議にて、ご本人の希望やご様子、ご家族の意向等考慮し、計画を作成しています。	本人・家族はもちろん多くの職員の意見を聞き、介護計画を作成しています。又その後のモニタリング、見直しもされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に様子や気づき、対応を記録し、必要事項はミーティングで報告し、ユニット間でも情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人ごとにその都度の対応、ご家族への対応、生活保護、成年後見人制度の活用等、支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の診療所や精神科医、歯科医の往診等医療面の支援や、地域の保育園、学校、住民、ボランティアとの交流、支援をいただいています。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ひかりの園診療所、提携歯科医院、精神科医の往診等の支援をお願いしています。また、かかりつけ医への通院等にご家族にも協力いただいています。	本人や家族の希望に合わせて園の診療所や入所前からのかかりつけ医の診察を自由に選択し受けられる様に配慮されています。必要に応じて通院の付添も行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師訪問時やひかりの園診療所と連携し、日常の健康管理、医療面での相談を健康維持できるよう努めています。また、外部医院受診時には、情報提供表にて日頃の様子を含め報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の地域連携室に受診の相談や入退院の情報等ご支援いただいています。また、早期の退院にもできる限り対応するよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入園の際、グループホームでの対応が困難になられた場合、特養でのバックアップがあることを説明し、状態が変わられた時にはご相談させていただいています。終末期のケアについてもご本人・ご家族の意向、適切なケアが可能かを考慮し、改めてご相談させていただいています。	入所時から終末期についての説明をしっかりとされており、状態に応じて同法人の特養の受け入れやホームでの看取りケアが行える等幅広い選択肢が考えられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部職員が応急手当講習を受講しています。可能な限り受講し、各職員が対応できるよう努めていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の取り決め、緊急連絡網を整備し、緊急時には特養からの支援、町内の消防団の協力を得られるようにしています。	災害に備えて避難場所や備蓄の整理がされており、年に二回の避難訓練も実施されています。	今後、地域との協力体制が整うように地域包括支援センターの協力を得ながら前進することを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、適切に対応するよう心がけています。 一人ひとりの尊厳を大切に言葉かけ等の配慮が徹底されていきました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示のできる肩は日常的・自発的にされています。意思表示が難しい方については、ケース会議等で検討、対応しています。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、起床・食事・入浴・外出等、ご本人の希望に沿うよう支援しています。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で可能な方には、ご自分で行っていただいています。支援が必要な方については、整容、衣装を適切に着用していただける支援を行っています。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、園方の好きなメニューを用意したり、季節に合った食事を用意しています。また、調理や後片付けも一緒にしていただいています。 利用者と共に盛り付けをしたり料理を行うなど家庭的な雰囲気が伺えました。また、季節ごとのメニューや利用者の希望にそった献立を取り入れる等の工夫もされていました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューで食事を提供しています。また、水分については、必ず飲んでいただけるようお茶の時間を設定しています。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な方には、ご自分で、又は声かけし行っていただいています。ご自分では困難な方については、食後に介助を行っています。歯科医の定期的な健診も行っています。

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	記録を付け、できるだけご本人のリズムに合わせた介助を行っています。排便状況を確認し、体調に変化がないか注意しています。可能な限りトイレでの排泄を続けていただけるよう支援しています。	一人ひとりの排泄パターンの記録や観察に基づき、出来るだけトイレでの排泄を継続できるなど職員で検討しながら支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を付け排便状況を把握し、ご利用者には水分をしっかり摂取していただき、必要に応じて薬を服用していただく等、便秘にならないよう注意しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日を予定しています。ただ、希望や状態に応じて、入浴日を変更する等の対応は行っています。週3回はゆっくり入浴していただけるよう支援しています。	週に3回の入浴日が決められていますが利用者の意向や体調に合わせて日ごとの変更等も調整されている。快適に入浴して頂くための工夫がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアにソファ等用意し、ゆっくり休息していただけるよう対応しています。また、寝具は施設のものを用意しますが、ご自分の物を希望される方には、使い慣れた物を自由に使っていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の状態に応じて、ご本人にお渡しして自分で服用していただく方や、必要な方には職員が介助し、服薬を確認している方もおります。様子変化があれば記録し把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事・洗濯・掃除等、役割を持って職員と一緒に手伝っていただいたり、刺繍や編み物、折り紙等、日課とされている方には、続けていただけるよう支援しています。		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日課の散歩、週2回交代での買物、季節ごとの外出、希望等があれば、その都度、散歩や外出を行っています。</p>	<p>買い物等の外出支援や毎日の散歩など一人ひとりの思いに寄り添い気分転換や楽しみが感じられる様に支援されています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一部の方が現金を所持し、外出時等に買物されます。管理が難しい方でも少額を所持しておられる方もおります。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話をご家族が用意してくださっている方もおられます。希望で手紙を購入される方や暑中見舞い・年賀状等、可能な方には作成していただき、出しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>明るく、清潔な空間を維持できるよう心がけています。共用リビングではテレビ・カラオケ・音楽等用意し、ご利用者に製作していただいた装飾をし、楽しんでいただけるよう努めています。</p>	<p>窓が多く地域の民家や自然が一望でき光も程よく差し込み開放的な雰囲気です。また、利用者の季節ごとの作品を壁に展示するなど温かみも感じる事ができました。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや廊下にイスを用意し、ご利用者の皆さんがお好きな場所で一緒に過ごしていただけるようにしています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご入園前に、ご本人が使い慣れた家具や、身の回りの物品をお持ちいただくよう、お伝えしています。</p>	<p>ホーム自体も家族の許可を得て居心地の良い空間作りに努めています。入所前から自宅で使っていた家具や写真を持参されている方もおられました。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は手すりがあり、バリアフリーになっています。物品もご本人が使いやすいよう配置を考え、車イス等でも自由に移動していただけるよう配慮しています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない